

EARTH DAY 50TH ANNIVERSARY



1970年4月22日(水)、最初の『Earth Day』がアメリカで誕生してから、今年で50周年をむかえます。

残念ながら、この間、地球環境は科学者の予測通り、悪化の道を辿り、今、世界中で気候危機が叫ばれています。

私たちアースデイ東京は次の50年も未来の灯をともし続けるために、時代をこえて、世代をこえて、今、できることを探ります。



アースデイ東京2020実行委員長 C.W.ニコルよりメッセージ

もしこのまま幸運なら、私は今年2020年に80歳の誕生日を迎えることとなります。それは私が最初に日本に来て58年、市民権を得てからは25年になるということです。

旅の中で出会った昔のお年寄りたち祖父母たちはもう、いなくなっていました。その時に会った多くの子ども達は今や、お爺ちゃんお婆ちゃんと孫から呼ばれる世代です。そうやって何十年にもわたり、この国の変化を見てきたのです。

世代が進み、技術が進み、Webとデジタルが進むにつれて、かえって世代の繋がりが途切れがちになっているようにも感じます。インター

ネットが祝福から呪縛に変化しかねないと心配でもあります。

子ども達が自然の、無垢な不思議や、素朴な美しさにも無関心になっているように感じるのも心配なことです。

戦争を望まないことはもちろん、平和な暮らしを続けたいという当たり前の願いは最も大切な事です。

大きな災害、大きな自然に向き合うからこそ、私たちはつながり合い、自然の多様性を守り、人間の多様性を高めるために、生きる刻を共にして活動しなければならないと思うのです。生きる刻を共に歩き始めましょう。

森の祈り 私にできること

願わくは
わたしは一本の木になりたい
暗闇の中に広く、深く根を張り
しっかりと土を抱えて
この地球を支える一本の木に

願わくは
わたしは一本の幹になりたい
空に向かって、まっすぐに、力強く
重ねた歳月と季節を年輪に刻み
すくくと立つ大きな柱に

かなうなら
この身を一枝に変え
光射す彼方へと手を伸ばし
風に揺れながら
天に祈りを捧げたい

願わくは
わたしは一枚の葉になりたい
瑞々しい緑の葉に
木陰を作り、清冽な息を吐き
春から秋にかけては
きらめく木漏れ日と戯れ
やがて命尽きれば密やかに舞い落ちて
再び森の土へと還るのだ

かなうなら
わたしはなりたいたい、どんぐりに
木の実に、ベリーに、果実に
食料を分け与え、広く種子を撒けるよう

さあ、みんなで一つの森になろう
それぞれの強さを持ち寄り
違いを受け入れ

砂漠に緑を取り戻そう
わたしたちの大切な惑星に
新たな命を育てるのだ
わたしたちの手で木を植えよう
この大地に
そして、みんなの胸に

2018年2月 長野県黒姫アファンの森にて

C.W. Nicol